世田谷村日記

石山修武

八月二六日
夜、宮脇愛子さん一行佐賀到着

八月二八日
午後一時宮脇愛子講議。うつろいの世界分布状態は予想を超えるものがあるが、そこに辿り着いた芸術家の精神の持続力を学生達は理解しただろうか。

十一月六日に開催するＴＯＫＹＯでの早稲田・バウハウス・スクールの概要をまとめ始める。このスクールの目的をより明確にする必要があることと、参加者をより特定する事が求められている。建築家デザイナー・工務店職人の既存勢力の外に新しい設計施工者を作り出さなくては駄目だ。これは理論だけを言ってるとアレギザンダーの二の舞になるから実験的具体物を作り出し、それへの段階的な解決案を求めてゆく方法を取るつもりだ。家具づくり、家づくり、の二講座から始めて、九月十五日に参加者募集、十月中旬募集〆、課題送附、二週間の予備演習を経て、十一月六日、対面式スクールの開始。年四回開講、スクーリングを通して新しいタイプの設計施工者を育成する。工務店経営者、設計事務所主宰者、および、その潜在的な予備経営者、設計事務所員が主要な参加者として望ましいが、学生の参加も拒否しない。早稲田・バウハウス・スクールを介して直接社会にプロポーザルしてゆくのが理想であろう。独自なウェブサイトを持ち、参加者はある程度の水準に達したら自分の案をそこに登録できる。登録された案は実現可能なモノとし、予算もそしてコストも公開される。公開されるコストには設計料、コンストラクションマネージメント料、そしてサブコン、各種職人のリアルコストが公開される。要するにプロジェクトに値段がついている形式を作る。

積算能力がキチンとある設計者、デザイナー集団を組織化する。通俗的な実務能力の育成と共に、大事なのは一般的教養、趣味の教育であろう。

テキストの用意を急ぐ必要がある。

コスト編、趣味教養編の二本立てから始めるか。材木のコストについて、特にその流通については野村・松本にテキスト作りを依頼する。趣味教養編は森川に、趣味は極めて構造的に形作られていて、決して先験的なものばかりではない事のテキスト作りを依頼しよう。納まりのテキストは高木に、イームズ自邸のディテールを調べさせ、又、現在の一般的な商品化住宅のディテールを参照することから始める。